ひのたにえん

R８年　秋号

納　涼　祭

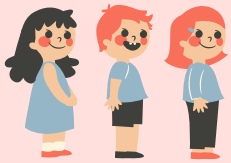






7/28(火)に納涼祭をしました！
模擬店では、チヂミやチーズタッカルビ、そしてキッチンカーでのフライドポテト販売など、お祭りの雰囲気を味わうことができたかと思います。ゲームでは、毎年おなじみの射的や水槽の中のお皿に乗るようにコインを落とすウォーターコインなど、難しかったかもしれませんが、たくさんの方が景品をゲットできました。
また当日はあいにくの雨で、予定をしていた手持ち花火はできませんでしたが、カラオケを開催し、観客も多くとても盛りあがりました。
日頃からひのたに園に関わってくださっている多くの方々にも足を運んでいただき、日常とはまた違った夏のひとときとなったのではないかと思っています。（川島）

つ　ど　え　ば　ま　つ　り



秋雨が降りしきる9/26(土)、今年もつどえばまつりを開催することができました。
お祭りらしい、屋台風メニュー！！熱い鉄板の上で、おいしそうにおどる焼きそばとフランクフルト。日野菜とマヨネーズを和えた、キッチンつどえばオリジナルのサラダパン。
スーパーボールすくいで屋台を演出。あいにくの雨にも関わらず、たくさんの人たちにお越しいただき、賑わうつどえばになりました。
元利用者さんのDIY作品の展示販売会もありました。ライトが照らされた街並み。テレビの中に映る桜の木。古城や洋風建築。ゼンマイ仕掛けで動く機関車や、ノシノシと歩く象。数百もの細かな部品を、一つひとつ丁寧に組み上げられた作品が並ぶと、そこには壮大な世界が広がりました。お客さんたちは見事な作品の数々に目を奪われて、たくさんの作品が売れて行きました☆
また、ボランティアグループの『こびとのくつやさん』にお越しいただき、トトロの小カゴづくりのワークショップを開催していただきました(*^-^*)かわいいトトロに心奪われ、大人の方も、お子さんも、夢中になって飾りつけを楽しまれていました。
つどえば恒例になってきました渋味会さんによる『カフェつどえば』も同時開催♪香り高いコーヒーに食後のひとときを彩っていただき、つどえばまつりは終幕していくのでした。（伊藤）









滋賀県蒲生郡 日野町
松尾121番地
0748-52-0645
glow
社会福祉法人グロー

アトリエ
セラミカとは

アトリエ・セラミカの魅力
2018年活動スタート！

ひのたに園で月に２回、陶芸作品を制作している活動のことです。「セラミカ」はポルトガル語で「陶器」の意味。陶芸家の中田美穂さんと山本やすみさんを講師としてお招きしています。活動は日野商人街道にある「つどえば」で、作品を見たり買ったりできるギャラリー&ショップも併設されています。自由な発想から生まれる、色とりどりの作品をお楽しみください！（赤澤）

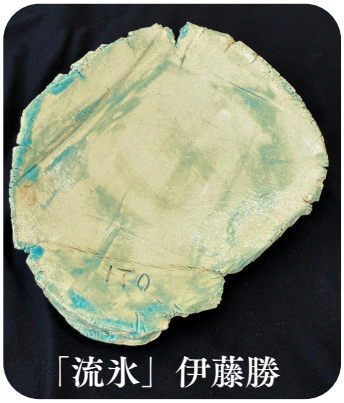
作品紹介


「どーなつ」えつこ

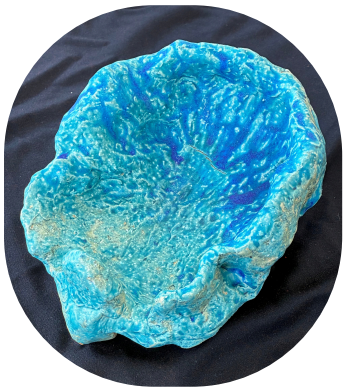
「豚に住む」三家外史雄



「ふね（小）」
近藤博文


「流氷」伊藤勝


「帽子をかぶったおじさん」
三家外史雄


「灰皿」中原広昭

人生が、ぎゅっと詰まってる
——中田美穂さん

どこかで見たような作品は１つもなくて、作家さん（利用者さん）の人生がぎゅっと詰まったような作品が生まれています。粘土に触れ、粘土をこねることで、じわじわとにじみ出てくるものがある。アドバイスするとよさが奪われてしまうので、私はなにもせずに見守ることを心がけています。評価することもしません。



作家さんのことを知れば知るほど、皆さんの作品にはまっていきます。パッと見ていいなと思った作品を翌日見たら、また違ったよさが伝わってくる。そんな作品です。

「つくりたい！」気持ちがあふれてる
——山本やすみさん

皆さんの「つくりたい！」という気持ちが作品にあふれているのが、とてもいいと思います。誰の中にも創作の欲求はあるのですが、それを素直に表現できる雰囲気が、ここにはあります。私は、いつも「うらやましいな」と思いながら、学ばせてもらっています。技術的にアドバイスすることはあっても、どんなものをつくるとかは皆さんにおまかせです。作為的ではないので、引き出すことはできません。

びっくりするような作品が生まれる瞬間を楽しみに、これからも活動してきたいと思います。



作家紹介

現在、アトリエ・セラミカで活動している主な作家さん（ひのたに園の利用者さん）紹介

ここで紹介している作家さんは、皆さん、ボーダレス・アートミュージアムNO-MAで開催されている「滋賀県施設・学校合同企画展」に出展された経験があります。また、滋賀県が主催する「ぴかっtoアート展」で入賞された方もいます。



三家外史雄さん

粘土の大きな塊を三家さんが手にすると、次の瞬間、三家さんのイメージが乗り移ったように、粘土が形を変えていきます。それは動物だったり、人の顔だったり、ビルだったり。三家ワールドは、多くの人を魅了してやみません。



中原広昭さん

大きい作品から小さい作品まで、色も形もさまざまだけど、作り上げた作品はすべて「灰皿」！どの作品もよく見ると、タバコを置くためのくぼみがあります。



伊藤勝さん

おしゃべりを楽しみながら、のべ棒を「ごろごろ、ごろごろ」と転がす伊藤さん。粘土の塊がゆっくりとお皿のかたちになっていきます。ヒビの入り方は天才的！

近藤博文さん



花瓶や船、コーヒーカップを黙々と作っておられ、制作中は他の方の話を聞いて優しい言葉をかけてくれます。そんな近藤さんの作品はどこか可愛らしくて優しい印象を受けます。



えつこさん

陶芸活動を楽しみにしているえつこさん。「いっぱい作ったろ！」と気合が入ります。たくさん生み出される作品は「皿」「だるま」「どーなつ」の3種類。最近は模様が入ったり、少し変化も見られます。

活動写真







展覧会の開催や、展示会への出品も予定しています。

つどえば
ギャラリー&ショップ
滋賀県蒲生郡日野町松尾
1507-1

てつのすけさん

「似た物はあるかもしれないけれど、自分で全部考えています」



真剣な眼差しを向けながら作品制作に取り組んでいる。自分の理想を追い求めて

冬にボーダレス・アートミュージアムNO-MAで開催される「滋賀県施設・学校合同企画展inga…～障害のある人の進行形～」に出展される、てつのすけさんに自身の作品への熱い思いや展示会に向けての意気込みを語っていただきました。
（聞き手・文　藤井）

ーー陶芸で大事にしていることはなんですか?
　オリジナリティですかね。最初陶芸をやるにあたって本で勉強をしました。何を作ろうかな？って思った時に葉っぱの形をしたお皿を作りたいなって思いました。自分が社会人の時にすごく仕事が忙しくて、自然を取り入れたいって思って観葉植物を買ったんですが上手く育てられず…。何十年と生活の中に手軽に自然を感じる物を取り入れたいと思っていたので、今その思いが作品作りに繋がっています。自分と同じように自然を求めている人に手軽に取り入れてもらえるように、自分の葉っぱのお皿から感じてもらえるように。お皿の葉っぱの形も、道端にあるお皿にできそうな形をした葉っぱを選んで拾ってきています。その葉を紙に形を写して陶芸に活かしています。似た物はあるかもしれないけれど、自分で全部考えています。
ーー熱い思いを胸に秘めながら制作活動をされていたんですね。自然を取り入れたいという思いはどこからですか?
　田舎者だからかな（笑）。緑が好き…海も川も、自然が好きなんです。自然の中で走り回っていた思い出があります。好きな自然の中で陶芸に活かせられる物は葉っぱだと思いました。
ーー展示作品の見どころはどこですか?
　すべて自分が考えて作った作品です。見に来てくださった方には、「このお皿には今日の夕飯のおかずを載せようかな？」「このお皿に野菜を載せようかな？」など、作品を見てぜひ考えてほしいです。そして、どの作品にもそれぞれの曲線を入れて個性を出しているので全部見ていただけると嬉しいです。
ーー最後に展覧会への意気込みを教えてください。
　初めての挑戦なので楽しくやれたらいいなと思います。自分の中での今回の展示テーマは『食卓』です。1人でも家族でも、葉っぱのお皿を取り入れて自然を感じながら楽しく食事をしている風景を皆さんが思い浮かべられるような展示にしていきたいです。ぜひたくさんの人に見ていただきたいです！

福岡毅一郎さん

「いつか、東京で作品をつくって暮らしたい！」

2025年8月にひのたに園にやってきた福岡さん。「美術館に行きたくて東京の大学に通った」というほどアートが大好き。造形活動に力を入れるひのたに園の活動は楽しいものになっているようです。
（聞き手・文　赤澤）





制作途中の「麒麟」。活動当初から大作に取り組んでいました

ーーひのたに園にきて１年ほど経ちますが、生活はどうですか?
　以前いたところに比べると、制約が少ないし、自由にできることが多いと思う。アートクラブや陶芸活動の時間があることにはびっくりした。食堂には100号の絵が飾られているし、すごいよね。
ーーひのたに園のアート作品で、おもしろいと感じるものはありますか?
　三家さんが描く絵や陶芸は本当にすごいね！まさに、三家ワールド。あの人は、先生の言うことを聞かずに、自由な発想で作品を作っているのがいいところだよ。オレはいろんなアートを勉強してきたけど、障害者アートと健常者アートを分けて考えるのは、あまり好きじゃない。作品は、作品なんだから。
ーー福岡さん自身はどんな作品を作りたいと思っていますか?
　うちは郵便局だったから、わら半紙がたくさんあって、小さい時から、毎日、日記のように絵を描いていた。以前、福井大学の先生に「ぜひやってほしい」と言われて個展をやったこともある。自分なりの「装飾性」を見つけたいと思って、描いてきた。2016年に大阪で開催された「デトロイト美術館展」を見たことで、「解体と再構築」というテーマにたどり着いたんだけど……、自分の作品が「解体」というわけではないな。作品のネタは、ノートにびっしりと書き溜めているよ。
ーーちょっと、話が難しくなりましたね。今後の目標や夢があったら教えてください。
　体調がよくなったら、東京の多摩地区に行って作品を作って暮らしたい。たまに上野に行って、美術館に行けたら最高だね。